

www.foro.jp

# foro フリースクール フォロ

# News Letter

残暑お見舞い申し上げます。暑い日が続きますが、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。暑い陽射しもなんのその、このところフォロでは野球ブームです。サークルをつくって、9歳からティーンズまで女の子も男の子もボランティアも、いっしょになって毎日、近くの公園へと練習に繰り出しています。

この間、府の不登校政策の動きもあって、子どもたちが自らの不登校体験を対外的に語る機会が何度かありました。身体の芯から絞り出して語られる彼・彼女たちの言葉に、なかなか自分に合う言葉が見つからない子も、うなずきながら耳を傾けるといふ場面もあります。子どもたちをめぐる社会状況は息苦しさを増していますが、ひとりひとりが自身の存在を責めることなく、ともに生きあう道を模索していきたいと切に思います。これからも、応援をよろしくお願いします。

2005年9月1日

特定非営利活動法人フォロ  
代表理事 花井紀子



## 「宝 物」

私がフォロに行くようになったのは、今年の4月からです。私は今中3の年齢で、中1から学校に行かなくなって、お母さんがフォロを勧めていました。でもそのときは「フリースクールなんか死んでも行きたくない」と思っていました。行きたくなかった理由は「不登校は暗い。不登校になったら人生終わり。私はそんなんじゃない」と思い込んで、自分＝不登校を認められなかったんです。まわりからいろいろ言われることに影響されて勤ちがいました。

いま思えば、そう思い込んでいた自分が最低に思えます。以前の私のように、不登校を悪く思っている人が世の中にいると思うと腹立たしいです。私は不登校のイメージを変えたいと思っています。それから月日が流れてやっと、自分＝不登校を認めることができたとき、フォロに入会しました。学校の友

鍋島茉莉子 (14歳)



だちじゃ分かり合えないから、不登校の友だちがほしくて入会しました。フォロにいる人たちは明るくてあたたかくて良い人ばかりです。フォロにいますと、居心地がよくて、素の自分でいられるからすごく楽です。

いま思えば、学校にいるときは何もかもがぎゅうぎゅう詰めで、ゆとりがなかったから素の自分でおられへんかったのかな、って思います。フォロは私にとってかけがえのない居場所で、とても大切な場所で、大好きです。フォロのような場所が世界各地にたくさんできることを願っています。(私が作りたいです。笑)

## 最近の活動から

### 「個人の思い」から「フォロの企画」へ …ミーティング

フォロでは、あらゆることを相談し合って決めていくことを大切にしたいので、開設以来ずっとミーティングの時間をもってきました。その持ち方は、そのときそのときのメンバーやスタッフの意見で週1回、曜日を変えてみたり、毎日15分ずつにしてみたり、試行錯誤で今まできています。開く部屋も「今日は多めの参加になりそうだから、この部屋でやろう」とか「今日落ち着けそうなのは、こっちの部屋かな」とか、その場で考えます。おもに「やりたいこと」を出し合って、その日程や内容を相談することが多いですが、スペースの使い方やレイアウト案についての意見交換をしたり、ホームページ更新に関して希望を募ったりもします。最近では、「旅行」「花火」「お金の使い方」などテーマ別のミーティングが目立ちます。ほぼ毎週何かをつくっている「クッキング」のメニューなどは、毎週水曜日になんとなく、関心のあるメンバーで基本案を出しています。通り一遍に「どんな声を持ち込んでいいよ」と言っても、メンバーは集まりにくいわけで、これからもみんなが気持ちを出しやすいよう、あれこれ悩みながら工夫を重ねていくことでしょう。

### 総会を開きました ～役員改選で、新体制になりました

6月に、NPO法人フォロの第4回通常総会を開きました。ほとんどのNPO会員の方へ出席いただき、つつこんだ意見を出していただきました。今後は、①行政との協働(また、行政からの有意義な支援を得ていくこと)について、②フォロが親の居場所にもなるためにどんな工夫をしていくか、③「不登校・その後」のことにフォロがどう関わっていくのか、の3点に取り組んでいくことになりました。

また、この総会で役員改選となり、次の方々が選出されました。理事に大溪裕美、奥村健、栄尚子、下城かよ子、花井紀子、石井志昂、若林義輝の7名、監事に木原万樹子(敬称略)の8人体制です。不登校のOB・OG、フォロのボランティア経験者も新たに加わり、今後のフォロを希望を持って模索していきたいと思います。どうぞこれからもよろしくお願いします。



秋に東京旅行を企画中



神戸フリースクールと卓球交流



大塚公園でピクニック



マンガイラストタイム

# フォロで感じたこと

北林 昌まさし (ボランティア)

フォロにボランティアスタッフとして通い始めて4か月経ちました。本当にいろいろあり過ぎて、あっという間の4か月だったと振り返ってみて改めて感じました。フリースクールに携わろうと決めたのは、私自身教師を目指しており、教育課題の一つである不登校の子どもと、不登校の子どもたちが通うフリースクールの実態を肌で感じたいと思ったのがきっかけです。

フォロに携わる以前は、不登校の子どもに対して「接しづらそう」、「甘えている」といった具合に、正直思っていました。いま思えば先入観に縛られて愚かな考えをしていたと思います。しかし、フォロの子どもたちに出会うまで、そう思っていたのは事実です。

たったの4か月ですが、以前の考えが愚かなものだったと思えるほどまでになりました。そう思えるようになったのは、フォロに通い始めたころ、どのように接すれば良いか戸惑っている私に子どもたちが笑顔で話しかけてくれました。「接しづらそう」なんて思っていた私自身恥ずかしいですし、毎回見る子どもたちの笑顔に、逆に私が楽しませてもらっている気がします。また、一度子どもたちから学校に行かなくなった理由を聞く機会があり、学校に行かないことへの罪悪感、将来の不安などを抱え、大変悩んでいることを知りました。「自分に甘えている」子どもがこのように不安を抱えたり、悩んだりするのでしょうか。そして、まだまだ大人に言えないことも多いと思います。一人で悩むことは大変苦しいことですし、それを打ち明けられる環境がないので自分で考えて解決しなければならないのです。しかし、つらい顔一つせずに、笑顔で接してくれる子どもたちは本当に強い人間だと感心しています。学校や教師によってちがいますが、あくまで私が通っていた小・中・高等学校では、教師の理想とする生徒像を有無も言わず生徒に強制する感があり、言いたいことは言えない環境でしたし、もし言いたいことを教師に言えたとしても、難しい言葉で丸め込まれることが落ちでした。しかし、このフォロでは子どもを第一に考えている場であり、子どもたちはそこで生き生きと生活しているので、大人顔負けな発言や子どもならではの優しい行動に毎回感動や驚きを感じさせられています。

このフォロでの私は子どもだからといって、私自身に妥協することなく、子どもを一人の人間として

真剣に向き合って接するように心掛けています。だからお腹の底から声を出して笑いますし、また時にはケンカをしているような言い合いになることもあります。あとで私が言ったことが本当に正しかったのか悩むこともあります。「良かれと思って言った言葉が子どもを傷つけているのではないか、私が子どもの居場所を奪っているのではないのか」と。そんなことを一々考えていては身が持たないと思う人がいるかもしれませんが、その通りだと思う反面、それぐらい子どもは奥が深い人間なのだと思う私もいます。

しかし、一方で私の中でまだ納得いかないこともあります。私は毎日当たり前のように学校に行っていた人間です。また教師を目指している人間です。子どもたちにとって「学校」に行かないことは本当に良いことなのか、まだわかりません。しかし、「不登校」は悪いことだとも思っていない。「学校」、「不登校」両者についての私の考えが矛盾して絡まっているのです。

「学校は必要ない」、「不登校は子どもをだめにする」といった内容を本などでよく目にしますが、私はどちらもそう思っていないと思います。学校に通っている子どもたちには、不登校の子どもたちが学んでいることは学べないが、それと同様に不登校の子どもたちは、学校に通っている生徒が勉強にかぎらず、ほかに学んでいることは学べないのです。このようにどちらの立場も学ぶ種類はちがえど、子ども



甲子園観戦のヒトコマ

ちは何かしら学ぶことができるのです。それを両者否定し合うだけでは、その間にはさまれている子どもたちがかわいそうだと思います。学校に行きたくても行けない不登校の子どももいますし、学校に行きたくないのに無理やり行かされている子どももいるのです。どちらが正しくて、どちらがまちがっているって問題ではないと思っています。もっと「不登校」支援機関や教育機関、家庭とが協力し合って、子どもたちにもっと、いろいろな学びの場、生きる環境を提供できるように考えていかなければならないのではないのでしょうか。

最後にフォロのボランティアを含めたスタッフのみなさん、今まで親身に相談にのっていただき本当にありがとうございました。またこれからもよろしくお祈りします。そしてフォロの子どもたち(子どもなのか!? 笑)、人生一回きりしかないので楽しんでいきましょう！

## 大阪府・不登校半減政策をめぐって

2月に結成された「大阪府の不登校政策を考える市民連絡会」にはフォロも参加し、はや半年が過ぎました。新年度から、学校と距離をとりたい子どもたちやその親が、よりつらい状況に追い込まれることのないように、府教委と二度にわたって懇談をもったり、府議会議員の方々に話を聞いていただいたり、子どもの人権を考える弁護士さんたちに会っていただいたり、当事者の立場でできることをやってきました。8月には、当初からの希望であった太田房江府知事との懇談も実現しました。「半減という表現で傷つけてしまったことは申し訳なかった。今後は、言い方に気をつけたい」と知事は語っていました。

まだまだ課題は山積ですが、ひとまずこれまでに総括し、今後を考えあっていくために、連絡会では集会を企画しています(9月10日土曜日午後)。別紙チラシをご覧くださいのうえ、ふるってご参加下さい。



8月2日、府知事懇談のようす

## フォロ・ブログ、要チェックです!

6月から、フォロのホームページに新しいコーナーをつくりました。日常のようすを日記のような感じで、写真を入れたりしながら気軽にアップしています。子どもたちも「今日のブログはこれ」と写真のレイアウトを考えたりモデルを搜したりコメントを書いたり、いっしょに更新を楽しんでいます。まだ見たことのない方、ぜひぜひクリックしてみてください! (URLは下記参照)



フォロのブログ <http://www.foro.jp>

## 譲ってください

野球用品(審判マスク、グローブ、ボール)、ビリヤード台、卓球台(折りたためるもの)、iBook、DVDプレーヤー、ゲームソフト、コミック、ティーバックの麦茶(毎日ガブガブ飲んでます!）、スリッパ

## フォロを応援してください

今回、不登校政策に動きがあって、あらためて学校の外に子どもたちの場があることの必要性を感じています。フォロはこれからも、どんな子ども・若者にも通じる活動を模索していきたいと思っています。趣旨に賛同いただけます方、どうぞNPO会員もしくは支援会員になってフォロを支えてください。

◎郵便振替口座 00900-1-25564

加入者名 フォロ

## Foro News Letter 第11号

発行日 2005年9月1日

発行者 特定非営利活動法人 フォロ

〒540-0025 大阪市中央区徳井町1-1-3

TEL06-6946-1507 FAX06-6946-1577

mail to: info@foro.jp

URL <http://www.foro.jp>